

**【全体講評】**

今後改善すべき点は、設問文に書かれている条件を満足した解答を書くという点です。本試験では多くの得点が 600 点の合格ライン前後に集まります。そこで合否を分けるのは、設問の条件を満足することに細心の注意を払うことができるかどうかということです。

具体的には不等式で解答することが設問文で明示されているにもかかわらず、不等式を用いないで解答している、不等号だけを解答しているケースがありました。設問文の条件を満足しない解答については、内容が良くても不正解で部分点はないと考えてください。

次に解答作成時のチェックポイントを挙げます。

**標準化された表記方法や命名基準に準じた解答作成**

記述式問題、特に穴埋め問題において解答を作成する際には、解答の周辺の記述をチェックして表現に違和感がないかを確認しましょう。具体的には、問 4 においては、「仮査定中」などの区別の値についてはダブルクォーテーションで囲むようにしてください。

**誤字や略字への注意**

難易度が低い設問であれば、採点基準が厳しいと考えるべきです。なぜならば、受験者間の差がつきにくいからです。したがって、問題文では漢字で書いてあるキーワードを、解答欄に書く段階で誤った字、あるいは、ひらがなで書くようでは得点できないと考えるべきです。

また、「門構え」など、絶対に略字では書かないでください。

**体言止めの使用禁止**

名詞が問われている場合を除き、「.....を設定」などという表現をやめて、「.....を設定する」あるいは「.....を設定しない」などという表現にしましょう。

以下、各問題の講評と採点基準について述べます。

**問 1 Web を利用した注文受付システム****【解説】**

厳しい採点基準を設定して採点しました。なぜ、部分点になったかをきちんと確認して、次の公開模試に生かしてください。

**[設問 1]**

「チェックできること」として、「電子メールが正しいこと」という解答がありました。受信していることもチェックできるので、厳しいですが不正解としました。

入力させる項目が不正解の場合、無条件でチェックできる内容を不正解としました。

**[設問 2]**

「ブラウザの設定でスクリプトを無効にしている」という状況から導ける結論も解答に盛り込んでください。「スクリプトが起動しない」など、ブラウザの設定でスクリプトを無効にしているという状況から導ける結論についても記述していない解答は、厳しいですが半分の部分点としました。

**[設問 3]**

(1)「会員マスタに追加すべき項目」として、「最終注文日」という解答がありました。意味は正しいです。しかし、問題文に「前回注文日以降に登録された商品」と書かれています。キーワードが問題文にある場合、それを活用して解答を作成してください。厳しいですが不正解としました。

(2)「プロセス」が間違っている場合、無条件に「追加すべき処理内容」は不正解としました。

「追加すべき処理内容」が「会員マスタを読み込み、前回注文日を商品詳細情報表示に引き渡す」という解答について、プロセスを「会員認証」とした解答が目立ちました。このプロセスで会員マスタからのデータを吸収しているという理由からだと判断します。しかし、表示する商品を選択するための情報は「会員認証」ではなく「商品選択」プロセスにおいて実施すべきです。なぜならば、設計内容の分かりやすさを維持するために、処理内容とプロセス名は整合するようにプロセス名を命名すべきだからです。「会員認証」プロセスは認証機能に限定すべきであり、「商品選択」プロセスにおいて商品選択に必要な情報を用意すべきと考えます。

解答解説にあるとおり、適切なキーワードが問題文に書かれていない場合、マスタのレイアウトの項目にありそうな「今回注文日」というキーワードを作るのではなく、「本日の日付」や「システム日付」というキーワードを使えるようにしましょう。厳しいですが、「今回注文日」などの解答を使って「追加すべき処理内容」を記述した解答は、半分の部分点としました。

**問 2 人事システムの導入****【解説】**

設問 2 の穴埋め問題において、空欄 a や空欄 b では、「社内 LAN」や「人事部 LAN」とした解答がありました。

例えば、空欄 a を「社内 LAN」とするとファイアウォールから Web サーバがアクセス可能となり脆弱性が増します。空欄 b を「人事部 LAN」とすると PC から業務サーバにアクセス可能となり脆弱性が増します。したがって、厳しいですが、これらは不正解としました。

セキュリティ対策では、技術的対策なのか、人的対策なのか、あるいは、クライアント側の対策なのか、サーバ側の対策なのかを設問文で確認してください。

設問 3(1)では「新パッケージにおいて」と書かれていることから、サーバ側の対策が正解となります。したがって、パスワード付のスクリーンセーバの起動はクライアント側の対策となり、不正解となります。

[設問 1]

設問文の条件にしたがって、空欄 c と d についてはトランスポート層よりも上の層のプロトコルを解答してください。

[設問 2]

(1)このような問題では、問題文から正確に引用してください。「給与計算を行う機能」ではなく、「給与計算機能」です。ここではこのように厳しく採点しています。

(2)“利用するツール”については、問題文を“ツール”というキーワードで検索すると、「EUC ツール」と「簡易開発ツール」に絞り込めると思われます。したがって、“利用するツール”については、これらのキーワード以外は不正解としました。なお、“追加開発する機能あるいは資料”が不正解の場合、その“利用するツール”は無条件で不正解としました。

[設問 3]

(1)設問文から新パッケージ側からの技術的対策について問われている点を確認してください。クライアント側からの対策ともとれる解答については厳しいですが 1 点の部分点、スクリーンセーバの採用など明確にクライアント側の対策であることが分かる解答については不正解としました。

(2)ログイン ID が実在することを知らせる旨が書いてある解答については正解としました。問題文において使われている「ログイン ID」をそのまま解答に活用してください。「ログイン ID」以外の同義語を使った解答については意味が合っていたとしても 1 点の部分点としました。

### 問 3 販売管理システム

[解説]

クラス図の多重度を求める設問の出題頻度は高いです。問題文に書かれている条件から確実に求められるようにしておきましょう。

[設問 1]

空欄 c のような多重度の上限については、多くの場合、問題文に書かれています。そのつもりで、問題文を読むとよいでしょう。下限については「0」からなのか、「1」からなのか、しっかりと考えてください。場合によっては常識で判断しなければならないケースもあると思います。

[設問 2]

空欄 d については、「特別値引情報検索(商品番号、顧客番号、受注日)」,空欄 e については、「顧客値引情報検索(顧客番号、受注日)」,空欄 g については、「商品更新情報(商品番号、受注数量)」を正解とし、引数の書かれていない解答は無条件で不正解、引数が適切でない解答は部分点 1 点としました。

[設問 3]

設問文に「不等式」と明示されているので、内容が合っても不等式ではない解答は、不正解としました。

[設問 4]

(1)低い正答率でした。業務運用でカバーする方策についても、答えられるようにしておきましょう。

(2)受注数量を小数点以下の端数入力に対応させるという対策案なので、端数も小数点として受注数量に入っていると考えてください。したがって、クラス名に「受注明細」、属性名に「端数」という解答がありましたが、この場合であっても商品クラスに梱包数量という属性を追加する必要があるので不正解としました。

(3)特別値引率よりも顧客値引率の方が値引率が高い、あるいは、顧客値引率よりも特別値引率の方が値引率が低い、という旨が書かれていれば正解としました。

### 問 4 中古車査定システムのソフトウェア設計

[解説]

穴埋め問題は、細心の注意をはらって解答してください。200 点から 800 点のスケールスコアでは 5 点ごとのスコアとなります。ちょっとした不注意で 5 点の差がつくということです。不注意の例としては、「顧客メールアドレス」という正解に対して「メールアドレス(顧客)」,「買取希望額」という正解に対して「買取希望金額」という解答がありました。標準化された表記方法で表記できることも評価の対象と考えてください。

設問 2 の(1)や設問 3 の(1)において、解答例にあるとおり、“仮査定中”などの区分の値についてはダブルクォーテーションで囲むようにしてください。根拠は問題文においてそのように表記されているからです。今回は減点していませんが、標準化された表記方法で表記できないと判断し、公開模試では不正解にします。

[設問 1]

問題文中の言葉を正確に使うて解答してください。正確でない場合はすべて不正解としました。

[設問 2]

(1) 正答率の高い問題でした。

(2) 空欄 c と空欄 d については、処理フローだけを見ても解答を導くことはできません。問題文に書かれている記述をもとにして解答を導きます。不等式でない解答については、設問文の条件を満足していないので厳しいですが不正解としました。

[設問 3]

(1) 正答率の高い問題でした。

(2) 不等式でない解答については、設問文の条件を満足していないので厳しいですが不正解としました。

[設問 4]

(1) 買取契約テーブルを登録する旨が書かれている解答を正解としましたが、「契約者番号を採番する」旨が書かれていない解答は半分の部分点としました。

(2) 問題文において買取契約処理後にただちに買取契約後処理が行われることが明示されていること、および、担当者メールアドレスを取得するために必要な案件レコードが買取契約後処理で選択されていること、以上の2点を根拠に、「買取契約処理」という解答を不正解としました。

**【今後の試験勉強について】**

アプリケーションエンジニア試験の記述式問題では、必須となる問1と問2を、短時間で解答して高得点することが、記述式問題のクリアに必要なことです。そのためには、テキスト学習とともに、学習分野に関連する過去問題や予想問題を、時間を決めて、実際に鉛筆を動かして解くことが重要です。解答は頭の中だけで作成して終りにしては、内容は合っているても、実際に得点できる解答を作成することは難しくなります。

ソフトウェア開発技術者試験合格者のアプリケーションエンジニア試験の合格率は高いです。その理由の一つに、ソフトウェア開発技術者試験の合格者は計算問題が強いという点があります。記述式問題に計算問題の設問が出題された場合、それが合否のポイントになるということです。受験者全員、記述式問題に出題される、伝送時間や待ち行列の計算問題を確実に解けるようにしておきましょう。

時間があれば、ソフトウェア開発技術者試験の午後の問1から問4までを制限時間17分で解いておくとよいでしょう。

学習時間が予定どおり取れていない受験者は、まず、

何のために、この試験に合格したいのかを確認するとよいでしょう。この動機付けが不十分であると、結果として合格は難しくなります。**動機付けを明確**にしてそれを学習計画の再作成と進捗管理に結びつけて、合格に向けて再スタートしてください。

学習の進捗が予定どおり進行している受験者は、安心しないで試験の結果をもとに弱点分析をして、その弱点克服を計画して実行しましょう。また、1週間当たりの学習量の割合において、午前問題や記述式問題と比較して論文練習が最大になるように学習スケジュールを調整してください。次は、本試験と同様に論述式問題がある公開模試です。

**(午前問題対策)**

**過去問題を中心に学習**して分からない点についてはテキスト等で確認するようにしてください。また、最新動向を学習するためにも、専門雑誌を読むことを習慣付けてください。

**(記述式問題対策)**

**時間管理をして問題を解く**ようにしてください。過去問題の問1と問2は20分から25分、問3と問4は40分の解答時間です。

**(論述式問題対策)**

論述式問題では、**題意に沿って論述すること**、**能力と工夫した点をアピールすること**、**設問アからウにおいて問われている項目のすべてに答えること**、以上の3点が大切です。これらについては、テキストでしっかりと確認してください。

2時間で論述式を完了させるためには、問題文全体を読解して、それを論文の論旨展開に活用することも重要となります。問題文全体が、採点者から要求されている論文の要旨になっていると考えて、問題文を膨らませるように論文を設計するとよいでしょう。**出題の趣旨に沿って論述することに細心の注意を払う**、**常識的な内容を書く**、**第三者に分かりやすく書く**、ことが論文合格のポイントです。

- 以上 -